

昔の暮らし聞き取り隊 聞き書き集⑦

平成26年7月発行

佐藤 百合子 さん

昭和4年（1929年）8月31日生 84歳

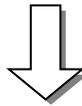
～教員として生きて～



喜茂別町教育委員会

「聞き書き」とは？

- ◇ 「聞き書き」とは、人から聞いた通りに書き取った記録のことです。
- ◇ 「聞き手」が「話し手」の方のお宅におじゃましたりして、お話をボイスレコーダーに録音します。
- ◇ 後でその録音を聞きながら、できるだけお話しされた内容や口調を生かして、話し言葉で文章にまとめます。
- ◇ それを本人に、確認や修正をしてもらいます。
- ◇ 「聞き手」の感想や批評は一切加えていません。



- ◎ 時代を共有したり、その人の経験から生きる知恵を学んだり、昔の暮らしを今に活かすことができるかもしれません。
- ◎ 地域を守り続けるため、お互いに助け合うことや支え合うことの大切さや楽しさを伝えてくれるかもしれません。

一 私の生い立ち

私は、昭和4年8月31日に倶知安町の豊岡194番地ってところで生まれました。昔は南三線とか南四線とかって言ってたんですけどね、途中で字名が改正（昭和10年4月）されて、豊岡になったんです。30歳過ぎまでいたので、番地まで覚えてます。

実家は農家でした。6町歩（1町歩は約9,917㎡）はあったのかな。自分の拓いた土地を、おばあさんが間違ったって判子を押して取られたんです。だから小作農家でしたね。



【父と母】

両親は2人とも富山県の生まれでしたね。母方の祖母、両親、8人兄弟の大家族でした。私は上から5番目の3女でね、一番上と私とはね、19歳か20歳も歳が違うんですよ。で、その下にぐちゃぐちゃっているんですよ。

家は、今で言うと、京極町さけ・ますふ化場を越えた所に赤い橋があるでしょ。あの横につり橋があったの。京極に行く時は模範林って行ってね、今の噴き出し公園の近くのカーブのところたつみに細い道があって、つり橋を渡ってトンネル越えて線路を渡って行くんです。したから家は京極の方が近くでね、寒別かんべつ（倶知安町）の駅まで30分、異たつみ小学校まで50分かかるの、歩いて。その学校の土地は倶知安町長だった宮下雄一郎さんのお父さんが寄付してくれてたの。

一 家族助け合ったて

母親は、昔だから、ぼろ継ぎしたり、夜なべして子供の綿入れ作って寒くないようにしたり、何でも手作りしてたね。豆腐でも納豆でも。田舎だからね。ただもうそういうのに明け暮れてね。だから母親は朝起きれなかったの。したから自分達は兄弟がいっぱいたから当番を決めてね、家事を手伝ってましたよ。妹は「姉さんは洋食ばかり作って、私はあっさりしたものばかり作って。だからバランスよく栄養が取れたんだよね。」って言ってましたね。



【当時の居住者を示す地図】

— 厳しかった父の教え

小さい時から、根草だとか^{えんぼく}燕麦の中の草を取れって言われて手伝ってましたね。父親は越中富山で明治16年に生まれて、日露戦争で奉天に行ってるんです。そういう年代の生まれなのでおっかな

かったですね。神棚に小銭を置いて、どの子が悪いことするか、いっつも見ていたんです。つまみ出して雪の中に埋めたり風呂に放ったりね、長男はこの前 102 歳で亡くなったんですけど「父は凄く厳しかった。おっかなかった。」って言ってましたね。兄弟の下へいくほど父が優しくなっていくから「お前らは良いなあ。」って、兄はよく言ってましたね。

うちの父親は『人間は知恵さえ出しゃー。』ってね、「知恵を出さない。頭を働かせなさい。困った時には頭を一巡り働かせれば良いんだ。」と、よくそう言ってましたね。

一 単級複式学級で学ぶ

小学校は、昭和 11 年に倶知安の巽尋常小学校（巽小学校：昭和 59 年 3 月閉校）に通ったんです。校長がならさきよしまさ榎崎義正先生っていう凄く立派な先生でね、お坊さんの家庭の出身のようですね。絶対に子供を叩いたりしなかったんです。



学校は単級複式 (①) で、校長先生 1 人で 1 年から 6 年まで全校児童 43 人をひとつの教室で教えるの。ひとつの教室だから上級生

【小学生のころ】

が覗んでるのでお行儀がいいんですよ。黒板も教室の両側にあって、低学年は教室の西側の黒板、高学年は東側の黒板を使ったんです。

※①単級複式：僻地などの極端な小規模校において、全校、全年の児童又は生徒を 1 学級に編成する学校で、戦前には全国的に見られた。

校長先生が不在の時は師範学校（教員養成学校）を出た奥さんが代わりに教えに来て、コンクールみたいに一人ずつ前に立たせて、歌を歌わせたりしましたね。あれは嫌だったですね。

1年から6年まで同じ教室で勉強するでしょ。歴史とか地理とか自分の学年のことじゃなくても、毎回毎回同じこと聞くでしょ、それが面白くてね。先生に「どこ見てるんだ、自分の勉強せい。」ってよく注意されましたね。

それに、校長が理科の掛け図を作ってね、菜の花のおしべめしべとか、めくれば何でも出てくるの。1年から3年までは大事なところだけ教えて、「あとは書き取りせえ。」って言うの。したからノートが何冊も必要なんです。1日に1冊使ったりするんです。それで母親が困って、家で鶏 100 羽位飼ってたから卵を売りに行って、その金で学用品をあつらえてくれたの。昔はね、学校で学用品売ってたの。筆でも墨でも何でも。今考えたら、親にだいぶ迷惑かけたなあって、明治生まれの親は偉いなあって思いますね。

でもね、戦争が激しくなってね、みんなお父さん達が兵隊にとられてね。見送りするんですよ。日の丸の旗振ってね。遠いのに駅まで行ってね。大変だったですよ、暑くて。

— 子供の頃は本の虫でした

小学校の庭に薬草が植えてあって、全部学名が書いてあったんです。私はそれが気にいって、毎日ずっと見ていましたね。それとね、さくらんぼの大きな木が何本かあって、中学生が登って取って上から落としてくれるんです。それも楽しかったですね。

休み時間には当番の人がたすきを掛けて、時計を見て鐘をカンカンって鳴らすんですよ。

昔は馬の時代だから、みんな種馬が好きで、学校から出て見に行ってたので、鐘が鳴っても学校に入らなかつたんです。私はそんなの見ないで本ばかり見ていたんです。あの頃、学校で「少年倶楽部（週刊少年マガジンに統合）」に「少女倶楽部（^{かん}廃刊）」、菊地寛の本とか色々な物語の本もあったし、「小学一年生」から「小学六年生」まで、学年別の学習雑誌があつたんです。もう雑学で読むのが好きでね、「キング（^{かん}廃刊）」でも何でも読んだの。家に帰っても浄瑠璃の本でもお姉さんに本取ってちょうだいって言ったら、お姉さん優しくてね、取ってくれたの。エッチな本でも何でもあつたら読んでたからね。それで父親が心配してね、「本ばかり見て変な子供になったら困る。」って言ってね、3年生の頃かな、私が学校に行ってる間に野原に持ってって全部焼いちゃったの。したから私も泣きながら灰かき分けてたね。

仲良しのふゆちゃんって子が倶知安の尋常高等小学校に通ってて前田克己先生（②）の受け持ちでね、古本を借りてきてくれるの。「あんた、1日で読みなさいよ。」ってね。この先生は倶知安の高等女学校（町立倶知安高等女学校：昭和24年4月倶知安高校に統合）の時も理科を教えてくれてね。喜茂別に来たら喜茂別中学校の校長先生でした。いっつも「帰りに寄れ。」って言われて寄ってましたね。私の恩師なんです。

※②前田克己先生：旧喜茂別中学校第4代校長。長年に渡り豆本の制作を通じて喜茂別など地域の歴史の掘り起こしや保存活動で活躍されている他、旧喜茂別町史の編纂委員会執筆責任者としても尽力。1913年生。余市町在住。）

一 校長先生の思い出

あの頃はね、“釘刺し” って言ってね、地面に釘刺して国（陣）取りして遊んでたね。あと、ブランコね。ふゆちゃんが結構おてんばでね、漕いで漕いで1回転して落ちてね、校長先生の奥さんに世話になったこともあったね。私はブランコ漕ぎは苦手だったね。鉄棒もあったけど、あれも苦手だったね。走るのだけ得意だったの。

私左利きで、1年生の時に左手で習字書いてたけど、校長先生は「直せ。」って言いませんでしたね。

1年生の時に校舎が新築になってね、縁の下に潜ってね、入った時はよかったんだけど出られなくなってね。1年生全員鐘が鳴っても出てこれなくてね。やっとどっかから出てこられてね。それでも怒られなかったね。ストーブの上に金網敷いて餅を焼いて食べさせてくれたりね。ほんとに檜崎先生はいつもニコニコしていて、優しい校長先生でしたね。

4年生の時に、久保庄助先生っていう、書道が上手で優しい中にも厳しさのある校長先生が来たんです。友達の呼び捨てを固く禁止して、“さん” とか“ちゃん” を付けないと叱られました。奥さんは金沢生まれで子供も6～7人いましてね。上の保子お姉さんが京都で修行してきて娘さん達に和裁や洋裁を教えるんです。池坊（華道）とか裏千家（茶道）も教えるんです。道具を全部持ってらして私達は湯のみだけ持って行けばよかったです。

4年生の時に奥さんに裁縫を習って、運針（針の運び方）の稽古で左利きが直りましたね。

学校に大きな裁縫室があって、近所に女学校を出た三條好子先生っていう裁縫の先生がいてね、低学年の時、吹雪で神原坂（かんばらざか）っていう大きな坂で難儀したら「この角巻の中に入りなさい。」って入れてもらってね、やっとの思いで雪を漕いで通学しましたね。

— 父親っ子でした

学校まで歩いて 50 分もかかるもんだから、冬は四線^{しせん}道路っていう馬にラッセルを引かせてつけた道路があるの。そこをみんな送ってもらうのね。でもね、雪が深いんですよ。やっそこ歩いてね。家からその道路までは、父親がカンジキで毎日朝 2 回、帰り 2 回、雪を踏み固めてくれてたんです。

小さい時からお使い頼まれて、数え年で 4 歳頃から隣の家に行つてあれを借りてこいとか言われるんです。ランプのほやが壊れたから寒別に行つて買ってこいって夕方になってから言うの。そしたら、橋を越えたら寒別の子供がいて「山の道産子すぐ分かる。やーいやーい。」って苛^{いじ}めるんですよ。こっちの子供は「どっ寒別の橋の下。」って言うの。そうやって喧嘩なんかしてね。そしてやっ所に店に行つて買って、泣いてたら、父親が汽車から降りてきて「お前何で泣いてるんだ。」って。私は、「男の子にいじめられた。」って。すぐ泣いてたんです。近所のおじさんも馬の上から私の帽子を取って、泣かせるんです。泣いたら返してくれてね。妹はね、絶対に泣かなかったんです。

でもね、私、父親のめんこだったの。いつも父親のそばにべったり座つてね。算数の勉強とかしてて間違つたら「うそ書いてる。」って煙管^{きせる}で頭叩かれましたね。父親は暗算早かったんですよ。

夏休みの宿題なんかは、1 日か 2 日でやっちゃうの。だからやること無くなって困るのね。

布を切つて人形の着物を作るのが好きでした。ちゃんと袖や衿もつけてね。木登りも得意でした。

男の子は学校に行く途中でカブトムシを取ってね。学校で闘わせるために。女の子は水の中に入って何かを取って吸ったりしてね。私は学校を遅刻するのが嫌だから、その人達と一緒にならないで先に行っちゃうわけね。で、学校に足洗い場があって、馬糞とか付いちやうから綺麗に洗ってね、靴の中も洗って干しておくの。私は遅刻したことなかったからよかったけど、道草して遅刻した子は教室の中で立たされてました。

夏は下駄や草履で通って、冬は配給の長靴で通いましたね。2年生の頃までは父親が蝶々のついた靴を買ってくれたの。

4年生位になったら戦争が酷くなってきてね、勉強かいこしないでお蚕かいこさんを飼わされたの。学校の途中に桑の木があって、葉のついた枝を5～6本持っていかないと駄目なの。登って取ったりしてね、それが大変でね。それをね、葉っぱをちぎってやるの。そして、燕麦えんぼう殻まゆを押し切りで切ってみご縄で編むの。その中にお蚕かいこさんが繭まゆを作るんです。私はそれを作るのが上手でね、みんなの分全部作ってあげてたね。だから、勉強は半分しか出来なかったです。

家でも飼わされましたね。戦時中だからね。その繭まゆが、銘仙めいせんっていう絹織物に還元されてきたんです。

それからね、兎も飼わされたの。みんな学校で割り当てるんですよ。兎の皮はを剥いで軍がに供出するんです。皮は軍服がの外套がの裏に貼り付けるの。家に帰ったら兎の餌の草刈り。下に兄弟がいたから、子守りしながらね。父親は、兎の皮を剥ぐところを子供に見せなかったですね。「絶対にこっちに来るな。」って言われてました。

— 校長先生の後押しで女学校へ

小学校（当時国民学校）は昭和17年の3月に卒業してね。普通はそのあと高等科に2年行くんですけど、校長がなんとかんだ私を俱

知安の高等女学校に入れろって両親を説得してね。母親は「百合子を看護婦にしたい。女学校はお金がないから無理だ。」って言ってました。以前は金持ちでね、父親も豆とか除虫菊とかで儲けてね、日露戦争にも行って賞状とお金と金鵄勲章きんしをもらってね。親孝行だよって富山で家を建ててね、それから北海道に来たんです。その母親を善光寺に連れて行ったって。その頃は金持ちだったって聞かされました。

だけど、暑い時に豆腐屋さんの水を飲んで、一家で赤痢せきりになって、その医療費で貧乏になったんです。その頃寿都から味噌醤油屋さんが来てて、その人がお金を貸してくれたんです。「利子はいらない。元金だけ返してくれればいい。」って。今は商売を辞めています、福島世二さん（現倶知安町長）の店でした。何年もかかって借金を返しましたね。

一 教員に憧れて

父親が兄を師範学校に入れたんです。国民学校高等科を出て、師範学校に行ったんです。でも3年の時に友達と相撲をとって結核がうつったんです。それで中退して検定試験受けて教員の資格を取ったんです。

兄の最初の赴任地が京極町の北岡で、日曜日になったらつり橋渡って家に帰ってくるの。駄菓子とか買ってね。兄は、最後に北岡小学校（昭和57年3月閉校）の校長で終わりました。

そんなこともあってね、小学校の時の檜崎校長先生と、教員になった兄に憧れて、私も教員になろうと思ったんです。

女学校に通った時、1年生の担任だった岡光夫先生が岩見沢農高（当時は空知農業学校）を出た歴史・地理の先生でね、授業のはじ

めに文学の本を読んでくれたの。「吾輩は猫である」とかね。

2年生まではね、ちゃんと勉強したんです。3年生になったら昭和19年だから戦争が酷くなって援農ばかりでしたね。

援農は大和（^{やまと}俱知安町）の水田や畑に行つてね、10人位で泊まったね。喜茂別や京極の人が多かったですね。みんな農作業なんてやったことのない人ばかりで、農家の生まれは私くらいだから、もう大変なの。姉の嫁ぎ先の親戚にも援農に行つてね、「うちとお前とは親戚なんだぞ。ちゃんと仕事をみんなに教えてくれ。小豆が一株に20も生えてたぞ。女学生は駄目だ。」って。でも教えても教えても覚えてもらえないんですよ。

その頃の女学校は、1クラス50人でしたけど、私らの学年は110人の2クラスでしたね。途中で転校したり結核で亡くなった人もいましたね。寒別の駅から通うんですけど、寒別の駅まで歩いて30分、走ったら20分で着くんです。

あの頃はね、灯油がないから、夜勉強したら親に怒られるから、朝は早く5時に起きて、夜は発電機で充電したバッテリーで小さい明かりを灯して勉強したんです。あとは汽車の中で勉強したんです。胆振線の汽車が出来たばかりで、ルンペンストーブっていう暖かいストーブもあつてね。良かったですよ。



【女学校の胆振線の通学仲間と
（前から3列目の一番左）】

— 上級学校への進学をあきらめて

高等女学校（4年制）を昭和21年に卒業したあとの4年間、家業の農業を手伝いました。

ずっと教員になりたいって思ってたんだけど、父親が富山県のイタイタイ病のところで生まれて、神通川じんづうがわの水を飲んだり、鉍毒をもってる鮎とか食べて育ってるからか、足が引きつっていて筋肉痛が酷かったんです。私は北大へ行きたいって言ったんだけど、兄が「お前なんか無理だ。家の手伝いをしろ。」って。だから、父親孝行で家業を手伝っていたんです。

農業をしていた4年の間に青年団活動もして、陸上競技の100mと、幅跳び、高跳びの選手だったんです。100mは早かったけど、幅跳びも倶知安で3位でしたね。高跳びは足が短くて駄目でした。

ある時、青木澱粉工場に、病人が出たから急遽稲刈りに来てくれて頼まれて、3日稲刈りしたらその婆さんに気に入られて12月までいたの。ずっといてくれて言われたけど、毎日4時間位しか眠れなかったから、家に帰っちゃったの。

帰ってきて、やれやれ、もう行かないぞと思っていたら、また次の年、近くの藤田町議会議員の方の澱粉工場から経験者だから来てくれて言われて行きました。

その外、晩秋には倶知安中学校のグラウンドへ行って、工事の土を近くの琴平からトロッコに積むアルバイト、尻別川への護岸工事の石運びの労働をしましたよ。

— 縁が重なって母校の教員へ

4年ほど農業をしていたんですけど、たまたま私が近所の道路で馬に乗っていた時に巽小学校の小野寺校長先生と出会って、「お前

何で馬に乗ってるんだ。今、うちの学校で女の先生がいなくて困っているから来い。」って誘われまして、それで試験を受けたら受かったの。試験を受けたのは昭和 25 年 5 月で、翌月 15 日に巽小学校に採用になったんです。自分の母校に勤務することになって、しかも 13 年間も勤務したんですから、縁ですよ。

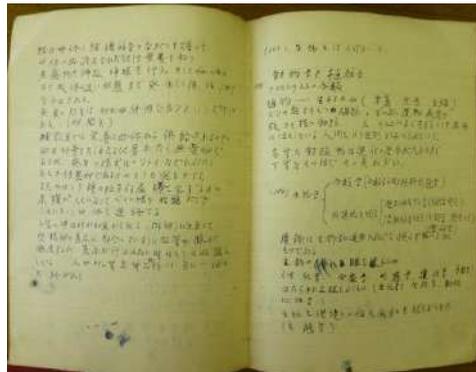
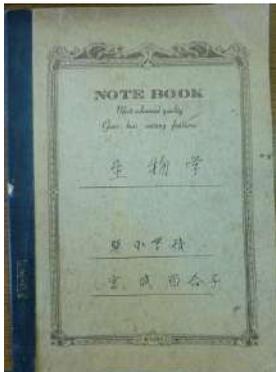
この小野寺校長は援農先だった大和の校長先生だったの。



【巽小に勤務した頃】

一 教員資格を取るために

その頃（巽小学校にいた時）、私は大学出の資格がないから、通信教育で生物学とかをラジオで勉強したんです。夏休み、冬休み返上で単位習得のための講座を受けに余市の黒川小学校に汽車で通ったんです。札幌の教育大学や岩見沢の高等学校まで試験受けに行ったりもしてね。昭和 29 年には兄と共に 1 ヶ月間、法政大学に講座を受けに行きました。そうしてやっと助教諭の資格を取ったんです。当時、私のように資格をもっていない先生はいっぱいいました。



【教員資格を得るために勉強していた時のノート】

法政大学での講座は午前の受講なの。下宿に帰ったら凄いご馳走があったし、昼は、学食でうどんとかそばとかが安かったから、それ1食だけで過ごしました。

「法政大学の総長室で伊東参州さんしゅうっていう書道家の先生の講座があるから、お前も一緒に勉強しに行くか。」って兄に誘われて行ってみたら、先生は当時 35 歳位の独身でね。凄くいい先生で、いつも褒めてくれたの。「お前、兄さんよりも上手になるぞ。」ってね。



【巽小学校】



【教員として、巽小卒業式
(前列右から3人目)】

弟が結婚するのが決まったからね、小姑の私がいたら困るだろうと思って、転勤希望を出したんです。校長先生は駄目だって言ったんですけどね。1年延ばされたんですけどね、余市方面に希望出したんですけど、何故だか喜茂別にきたんです。

転勤が決まった時に、喜茂別小学校の高谷校長が「いやあ、あなたを呼んだのに俺が転勤になったでや。行き違いだなあ。」って、言われましたね。

一 喜茂別小に異動して

喜茂別小学校にきたのが昭和 38 年の 4 月だから、火事になったあと（昭和 36 年 10 月 5 日校舎ほぼ全焼、翌年 9 月 5 日新築落成）でね、新しい教室だったんですけどね、教材は何も無いんです。「さあ理科の実験しましょ。」って思っても、学校は建ってるけど、何も無いんですよ、実験道具が。

保健室も無くて用務員室しかなかったんです。

ある日、暑い日に幅跳びをやってたら、金田薬局の娘さんがバタンって倒れて用務員室に運ばれてね。「宮成先生見てくれ。」って言われて、人工呼吸したり、色々処置したんだけど息吹き返さなくてね。すぐ金田さんに電話をかけて来てもらったんだけど、亡くなったのね。それで、その時幅跳びを指導していた先生がショックで血圧上がって入院したの。私の隣のクラスの担任だったの。

その先生は入院して 1 ヶ月経っても帰ってこないし、私 1 人で隣のクラスと併せて 60 人以上の子を受け持って大変な目にあってね。1 つの教室に 60 何人もいるんだからね。やっぱり隣のクラスの子が遠慮するのね。私のクラスの子には「あんた達威張ったら駄目だよ。隣のクラスの子に親切にしなければ駄目だよ。」って言い聞かせて、その先生が戻ってくるまで過ごしましたね。3 年持ち上がりの気心の優しい子ばかりでしたからね。



【当時の喜茂別小学校（校舎復旧落成記念誌より）】

子供達みんな可愛くてねえ。「何でこんなにいい子ばかり喜茂別に揃ってるんだろう。」って思いましたね。足の速い子も多かったしね。

理科の時間にはお大師山に連れてったり、神社の山に連れてったりね。クラス毎に畑もあったから、色んなものを作ったりね。

伊藤商店の息子さんとか山本さん、石部さん、溝口さん、押切さんとかね、勉強のできる優秀な子供が多かったですね。みんな偉くなってね。家に遊びに来て泊まった子もいましたね。

喜茂別小学校では、卒業式の看板をよく書かされましたね。クレードルの丸子社長が「これ、誰が書いた。」って聞いてくるんです。「私です。」と答えると、「おお、上手いなあ。」っていつも褒めてくれましたね。

それから、運動会の舞踊は毎年教えて大変でしたね。あと、修学旅行にも3回も引率で行きましたね。当時中山峠は今と違ってガタガタ道だったから、みんな酔うんですよ。それを看病してるうちに自分も酔ってきてね。あの頃は定山溪温泉で1泊して、札幌を見学して、苫小牧の掘り込み式港湾を見て、それから登別に行って、室蘭の白鳥台って高台で記念撮影をして。2泊3日だったの。あの頃は、男の子も女の子もパンツを履いて温泉に入っていましたね。

先生方は、みんな仲がよかったですね。柏先生って校長の娘さん、大坂先生、加来先生、佐藤^{みさお}操先生っていて、佐藤先生が「うちの人の従兄弟に佐藤法也って人いるから、その人のところに嫁さんに行ってく



【喜小の先生達と
(左から2人目)】

れ。」って言うんです。私が受け持ってた子の父親が主人の従兄弟の佐藤好道さんという方で、奥さんもうちの兄の教え子だったんですけど、よくその家にお風呂をもらいに行ってたの。そしたらその婆ちゃんが私を気に入って「この人は法ちゃんのお嫁さんにしないば駄目だ。」って言ってね。榮花豊さんのお兄さんの寿吉さんからね、「あの人と結婚してくれ。弟の友達なんだ。」って、あっちこっちから縁談がきて断れなくなって、本人を見たことないうちに決まっちゃった。

それである時、親戚の結婚式があつて、そこで初めて見たのね。話があつたのは35歳位で、結婚したのは昭和42年11月5日で私は38歳でしたね。

結婚式は、教頭の北浜雅二先生が発起人代表で、クレードルの方や受け持ちのお母さん達が発起人をやってくれてね。当時で130人位の大々的な会費制だったんですけど、学校側は派手にやりたい、クレードル側は地味にやりたいって毎度ぶつかってましたね。新婚旅行は洞爺に行きました。

一 喜茂別小から御園小へ

結婚した翌年に子供が生まれたんですけど、4月に喜茂別町立御園小学校（昭和63年3月閉校）に転勤になったの。



【昭和45年度御園小卒業式
（前列左から2人目）】

はじめの2～3ヶ月は車で通ったんだけど、お腹が大きくなって通えなくなって、御園に住宅があつて、そこに引っ越したんです。主人は当時クレードル興農に勤めてたので、そこから仕事に通ったんです。産休代替に来たのが

北禅寺の富田さんのお嬢さんでした。

御園小学校にいた時にね、産休明けに研究授業があって大変でしたね。

吹雪で汽車が一週間も不通の時があって、店の食料が何も無くなってね、給食はね、朝野商店のお兄さんが留寿都からキャベツとか仕入れてそりで持ってきてくれたんです。



【当時の御園小学校】

私が給食の担当だったんで、私が献立を立ててね、校長の奥さんともう1人の方が調理員でね。そしたらフルーツポンチとか出したら、問谷正己といやって校長（第14代校長）が怒るの。糖尿病を持っていたから「こんな栄養の無いもの食べねえ。もうちょっと栄養のあるもの作れ。」って。だから私も「校長先生、子供達が楽しみにしているんだから、たまにはいいんでしょ。」って言ってね。

また問谷校長は「俺にはまだ孫がいらないから。」って娘を可愛がってくれました。奥さんにもお世話になりましたしね。その次にきた川村校長先生も立派な方で、冬はよく家族でカルタ会をしましたね。

今の家は、主人の兄が農業をしていた土地だったんですけど、亡くなって、それで主人が受け継いで農業を始めたんです。そしたら共栄の渡邊繁雄さんって方が凄く熱心な方で、「共同で畑をやるべ。息子の榮吉に畑を起こさせるから。」って言って、トラクターで起こしてくれてね。凄く立派な方達なんです。私も子供に牛乳飲ますのに、よく橋を渡って渡邊さんまで買いに行っていたんです。

一 御園小から鈴川小へ

そうして今の場所に家を建てたら、喜茂別町立鈴川小学校に転勤になったんです。昭和50年に。鈴川小学校は8年間勤めたんです。



【鈴川小学校】

鈴川小学校もね、もう純粹で、いい子供達ばかりでね。子供達にね、日記を書かせてたんです。今日こんなことあったんだよとか、こうだったんだよってね。

ある時にね、受け持ちの子もそうやって書いてきたのね。それを見て、「昨日こんなことあったんだね。」って聞いたら、「先生、何でそのこと知ってるの？」って言われてね。自分で書いたのにそのこと忘れちゃってるんです。鈴川の子はみんなね、そんな純粹な子ばかりだったんです。今もね、みんな可愛くていい子ばかりですよ。立派に後継者として農業をやってますよ。

自分の娘が1年生の入学の時は、私は他のクラスの担任でしたので、主人にきってもらって、記念写真にも入ってもらったけど、私は自分のクラスに専念して、我が子の入学写真には入りませんでしたね。そしたら、娘が2年生になったら、自



【オペレッタの様子（昭和53年）】

分が受け持ったの。そのクラスがみんな仲良しだったから、差ついたら駄目だと思ってね。子供は作文で「私はお母さんが担任で良かったです。家に帰っても勉強を教えてもらえる。」ってね、半分お母さん半分先生で大変でしたよ。



当時いた中野哲先生のお嬢さんも「聖子ちゃん、お母さんって言ったら駄目なんだよ。佐藤先生って言いなさい。私もお父さんのことを中野先生って呼んでるんだから。」って言ってたね。

【管内教育実践表彰受賞

(昭和56年3月)】

公務補の土屋良江さんのお子さんも1学年下にいたから仲良しでね、いつも助け合っていましたよ。子供を預かったり日曜日毎に家族でスキーに行ったりね。

あの頃、鈴川小学校は全校児童が55人もいてね、金野富治先生が中心となってオペレッタ活動(③)に取り組み始めてね、いつも夜9時まで学校にいたの。お面作ったり、藁わらで菅笠すげかさを編んだりね、もう大変で、忙しかったんですよ。そして札幌に全校児童で泊まってNHKの全国放送に出演したんですよ。『おじぞうさんさんの恩がえし』が全国放送になったの。

※③オペレッタ：台詞と踊りのあるオーケストラ付きの歌劇。軽歌劇、喜歌劇。イタリア語で“小さなオペラ”。鈴川小では昭和50年代初期より昭和60年代にかけて全校児童によるオペレッタ活動に取り組

み、学芸会の他、テレビ放送や当校で行われた全国へき地教育研究大会など数々の場で発表し、情操教育に大きな成果を挙げた。

全国へき地教育研究大会（昭和55年9月）もあってね、沖縄や九州の校長も来て「あなたの作った衣装たいしたもんだ。」って褒めてもらったのが嬉しかったですね。和裁とか洋裁とか色んなことをやってたのが良かった



【昭和58年度鈴川小卒業式
（前列右から2人目）】

んです。父親の教えがね、『人間は知恵さえ出しゃー。』っていう口癖が役に立ったのかな？。

やっぱり教員はね、子供に伝えるためにも色んなことやってないとだめですよ。

一 倶知安小学校へ

昭和58年に倶知安小学校に転勤になって、特殊学級（現在は特別支援学級と呼称）の病弱学級を受け持ったんです。

重度のダウン症、てんかん、小児麻痺とかそういう子供が5人位いたの。7年間いたから1年生の時から6年間受け持った子もいましたよ。

周りの先生方がみんな親切でね。特に親学級の若い先生方は立派でね、みんな大校長先生になっていますよ。

当時倶知安小学校は全校児童が 1,350 人位いたんですけど、途中で東小学校が出来て、分かれちゃいましたね。(昭和 59 年 4 月東小学校開校)

平成 2 年に入って、校舎を新築して引っ越すことになったんです。特殊学級の教室は事前に希望したとおりの立派な教室になって、室内に水洗トイレもついて、嬉しかったですね。

そしてその年の 3 月に定年退職したんですけど、その時に、たいした金額じゃないんですけど、子供達のためにとと思ってね、学校に寄付したんです。



【倶知安小学校】

倶知安小学校へは、冬は鈴川の駅から汽車で通ってましたね。胆振線が無くなってからはバスで通ってね。主人に子供の面倒みてもらってね。娘もその頃は高校生になっていて、喜茂別高校に自分で弁当作って行ってくれてたからね。家族に助けられましたね。

— 三つ叱って五つ褒める

退職してから何ヶ月かの間はボーっとしてましたね。主人にも「お前、いつまでそうやってるんだ。」って言われてね。けどね、そのうちに鈴川小学校の運動会の練習の音楽が聞こえてきたの。西風

にのって聞こえてきてね。運動会を見たら急に元気になってね。それでやっと働き出したの。

そのうち福寿会（地区の老人会）の藤本会長が「福寿会に入って書紀と会計をやってくれ。」って毎日のように誘ってくるんですよ。それで入ったら現在まで22年続けてますよ、書記と会計を。

ほんとに今まで色んなことありましたね。1人娘も結婚したし、1人孫も今年大学生になったし。今までの苦労をみんな忘れてのんびりと好きなことをやれるのは主人のお陰です。

教員になったばかりの時、教壇に立つのが嫌で、足が震えて何喋ったのか覚えてないですよ。NHKのドラマの『花子とアン』のように、辛い時はトイレで泣いてましたね。

また父兄も、私がちっちゃい時から知ってる人達だったから「俺、ずっと百合ちゃんって呼んでたから宮成先生って呼べないわ。だから、百合子先生って呼ぶから許してくれ。来年になったらちゃんと宮成先生って呼ぶから。」って。そんなこともありましたね。

それにね、教員になりたての頃は、子供達みんな言うこと聞いてくれなくてね。5～6年生は生意気だしね。大変でしたよ。でもね、小西錦秋きんしゅうっていう民謡が上手くて三味線も弾く子がいてね、今でも喜茂別の文化祭に三味線を弾きに來てくれるんです。それにね、もう亡くなったけど、川上篁吟こうぎんっていう民謡の歌手も出たんです。クラス会で「先生あの時は悪かったなあ。先生の気を引くためにいたずらしたんだ。」って言うてくれましたね。

巽小学校の時の子供達も、役場、建設会社の社長、農業とかみんな立派になってね。女の子も立派な主婦になってますよ。

現在もね、2人ともまだ色んな団体の役職を持っています。また、近所の婆ちゃんの会もあったりね。墓掃除も一緒にやっていますよ。

『5+5=10』で、主人は私の足りない所を全部足してくれて、2人で助け合っています。

よく父親に言われましたけどね、『3つ叱ったら5つ褒めろ。いつまでも長い時間叱っていたら駄目だ。』って。教員だった兄もそういう教育を受けたからね。だから今の先生達には、“子供達の良い所を見つけて良い所を伸ばす先生”になってほしいですね。

生まれ変わっても、また教員になりたいですね、やっぱり。



【ご主人・法也さんと】

『翔』(鈴川小学校開校 80 周年記念誌より抜粋)

“ふるさとの山河変われど同窓の
きずなは固く語り合うなり”

『峠路』(平成 25 年版喜茂別短歌会歌集より抜粋)

“精一杯生きて多くの子を育つ
明治の父母を偲ぶ墓前に”

“小規模校羊蹄太鼓子等は打つ
青葉風吹き山にこだます”

“馬鈴薯の紫の花咲く畑で
写真撮らむと夫は言ふなり”

略 歴

年	月	日	学歴・職歴	備考
昭和 4	8	31	俱知安町字豊岡 194 番地で出生	
11	4		俱知安町立巽尋常小学校入学	S11. 7. 9 新校舎落成
17	3		俱知安町立巽国民学校卒業	S16 小学校が 国民学校に改称
17	4		俱知安町立俱知安実科高等女学校入学	
21	3	21	俱知安町立俱知安高等女学校卒業	
21	4		農業従事	
25	6	15	俱知安町立巽小学校勤務	
38	4	1	喜茂別町立喜茂別小学校勤務	S37. 9. 6 新校舎落成
43	4	1	喜茂別町立御園小学校勤務	
50	4	1	喜茂別町立鈴川小学校勤務	S50. 1. 25 新校舎落成
58	4	1	俱知安町立俱知安小学校勤務	H2. 1. 2 新校舎落成
平成 2	3	31	定年退職	
24	8	26	第 49 回後志短歌大会 最優秀賞受賞	
24	11	3	喜茂別町文化貢献賞受賞	



人と自然がきらめく町

きもべつ